

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.33

日時	2013年9月28日
行脚先	増井山随願寺
住所	兵庫県姫路市（播磨国）
行事名	

特徴

姫路市街北方に位置する増位山西南の山間にある天台宗寺院です。
「播州増位山随願寺集記」所収の寺伝によれば、厩戸皇子（聖徳太子）が高麗僧の慧便に命じ開基した増位寺が前身であり、後に行基によって中興されたといわれています。
「集記」によると当初は法相宗寺院でしたが、承和元年(834年)仁明天皇の命により天台宗寺院となりました。嘉承2年(849年)「随願寺」の寺号を与えられ、後に播磨天台六山の一つに数えられるようになったそうです。古今を通じて朝野の信仰が厚く、中世末期には多くの衆徒を抱えて山上に30坊もある大寺院でした。しかし、天正元年(1573年)に三木の別所長治に攻められ全山焼失となりました。その後、天正13～14年(1585～1586年)秀吉により旧地に再興されました。現在の本堂は、寛文6年(1666年)姫路藩主榊原忠次によって再建されたものであり、堂内には狩野探幽作の天井画が残っています。本尊の木造薬師如来座像は兵庫県指定文化財、脇侍の木造毘沙門天立像は国指定重要文化財です。その他にも本堂、経蔵、開山堂などが国指定重要文化財に指定されています。

黒田官兵衛との関わり

随願寺より近くの「有明の峰」は文人としての官兵衛に大きな影響を与えたといわれる叔父・黒田高友(休夢)が城を築き暮らしていた地です。また、随願寺一帯は後に三木合戦の相手方となる三木城主別所長治と黒田方が戦火を交えたところと言われています。

記録

